

釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会  
第1回湿原学習のための学校支援ワーキンググループ議事要旨

日時：2015年8月6日（木）10:00～11:50

場所：釧路地方合同庁舎 4階第3会議室

【出席者(敬称略・順不同)】

< 専門家 >

- ・高橋 忠一
- ・境 智洋

< 学校教員 >

- ・鶴居村立鶴居小学校 中川 道高
- ・鶴居村立下幌呂小学校 柴田 康吉
- ・釧路市立大楽毛小学校 武市 太一郎
- ・釧路市立鶴野小学校 深瀬 秀幸

< 学校教育行政機関等 >

- ・北海道教育庁釧路教育局 教育支援課 義務教育指導班 指導主事 塩谷 佳子
- ・釧路市教育委員会 学校教育部 教育支援課 指導主事 富田 義宏、松本 孝也
- ・釧路町教育委員会 教育部 指導主事室 室長 田中 敏行
- ・標茶町教育委員会 指導室 指導室長 佐々木 豊
- ・弟子屈町教育委員会 指導室 指導室長 水上 俊司
- ・環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所 所長 西山 理行

< オブザーバー >

- ・岡谷市立神明小学校 大熊 望

< ワーキンググループ事務局 >

- ・環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所  
国立公園・保全整備課 杉本 頼優  
釧路湿原自然保護官事務所 渡邊 雄児
- ・公益財団法人北海道環境財団 久保田 学、山本 泰志、安田 智子

事務局 第1回湿原学習のための学校支援ワーキンググループ（以下「学校支援WG」という）を開催する。釧路湿原自然再生事業が11年目を迎え、第3期釧路湿原自然再生普及行動計画（以下「行動計画」という）が開始されている。行動計画の冊子12ページにあるように、現在6つの小委員会が設置されており、全体にまたがる形で再生普及小委員会が設置され、そこに本日のワーキンググループは位置づけられている。第1期行動計画においては、これまで環境教育ワーキンググループ（以下「環境教育WG」という）が設置され、約8年間、教育委員会と連携した教員研修や学習素材の提供等を行い、一定の成果を得たと考えている。近年は北海道教育大学釧路校の境先生のご協力の下に教科学習における湿原の活用を目指した支援方法の検討等、より専門的な内容に特化してきた。昨年度、この環境教育WGは第14回をもって発展的に解消した。第3期行動計画では、学校教育の専門家を主な構成員として、新たな体制で設置することとなった。本日は、学校支援WGの目標や進め方等を共有するとともに、前環境教育WGの実施内容を確認した上で、専門的立場から忌憚のないご意見をいただく場として、開催する。

（配布資料確認）

（前環境教育WGで作成した「きづく・わかる・まもる釧路湿原」を紹介し回覧）

## 議事1 座長の選出

事務局 高橋委員を座長として推薦したい。

（委員一同異議なし）

（以下、高橋座長による進行）

高橋座長 資料2-2に、学校支援WGの名簿がある。学校教員については、学校支援WGの目的に賛同し、参加の了承が得られた学校教員を、座長の判断も含めて、その都度オブザーバーとして参加いただくこととしている。早速ではあるが、今回、岡谷市立神明小学校の大熊先生にオブザーバーとして参加いただきたいと考えているがいかがか。

（委員一同異議なし）

事務局から説明いただいたが、釧路湿原自然再生事業も11年目に入り、10年を経過した時点で、釧路湿原自然再生協議会（以下「協議会」という）の委員会の構成等に変化があった。

本学校支援WGも今回が第1回目の開催であることから、最初に自己紹介を行いたい。

（参加者自己紹介）

高橋座長 協議会設置当初から再生普及小委員会を担当している。

境委員 授業開発が専門なため、授業づくりの視点から学ばせていただきたい。

富田委員 前環境教育WGから引き続き参加している。本日は、釧路市教育委員会から2名で参加させていただいている。

塩谷委員 初めての参加となる。専門家の方々や、日頃から学校現場に深く関わっていらっしゃる皆様から様々な事を学ばせていただき、還元していきたい。

深瀬委員 湿原を子どもたちの学習に取り入れ、楽しく授業を進められるということを考えて十数年になる。2回目の実践の記録が、先ほど回覧があった冊子にも掲載されている。いろいろと勉強させていただきたい。

武市委員 東京出身で釧路に来てまだ3年ということもあり、釧路のことは、まだ殆ど存じ上げていない。今回、釧路湿原のことを勉強しているうちにお声かけいただいた。釧路の子ど

もたちも、身近な場所に釧路湿原があるにも関わらず、ほとんど知らない。この場で学んだことを、子どもたちにも還元できればと思う。

柴田委員 鶴居村なので釧路湿原は近い場所にある。身近な素材を子どもたちの宝として、地域を愛する心に結びつけていければと思う。

中川委員 今回、初めての参加ということもあり、いろいろと学ばせていただきたい。自身は、鶴居の自然やタンチョウにあこがれ、熱望して鶴居の小学校に入らせていただいた。3年目だが、湿原に関わった授業をこれからも継続し、子どもたちに魅力を伝えていきたい。

大熊委員 自身は、自然と関わること、子どもたちのやりたい事、地域素材をどのように授業に取り入れていくのか大変興味があり、今回、オブザーバーとして参加させていただいた。

田中委員 今回初めて参加する。教員時代は鶴居小学校や幌呂小学校等、鶴居村に長くおり、その際には湿原学習を行ったこともある。釧路町には湿原学習として取り組む学校はないが、他の学校が行う実践を参考にできればと思う。

佐々木委員 現在の職に就く以前は、小学校教員として、また理科研究会でも活動してきた。なかなか湿原を活用した授業の機会はなかったが、この機会に勉強したい。

水上委員 今回初めて参加する。弟子屈町も自然環境を大事にしている町であり、皆さんも訪問いただけたらと思う。

西山委員 環境省は前環境教育WGの設置に関わった経緯があり、今回も関係行政機関として参加している。かなり以前の事にはなるが、本省の環境教育推進室にいたこともある。そうした経験も活かしていければと思う。

## 議事2 ワーキンググループの当面の進め方、取組みについて

高橋座長 先ほど申し上げたように、目的をはっきりさせて本学校支援WGを進めていきたいと考えている。議事2について事務局から説明をお願いしたい。

事務局 新自然再生事業全体構想関係部分（配付資料）における学校教育支援の位置づけを説明し、第3期行動計画における記載を紹介したうえで、**資料2-1**～**資料2-4**、**参考資料**に基づき説明。

高橋座長 これまでの10年間の自然再生事業の中で、環境教育WGというものが設置されていたが、実は協議会が設置される以前の平成14年度、当時の北海道教育庁釧路教育局が中心となって教材開発を行った。小学校中学年、小学校高学年、中学校を対象にした環境教育のテキストや人材バンクを作成し、平成15年度に協議会が設置された後、この旧環境教育WGは平成18年度に解散した。学校支援WGの前身である環境教育WGは、平成19年度に学校教育における湿原の活用促進に向けて、環境省を事務局として新たに設置された。この環境教育WGでは、社会教育を視野にいれつつも、まずは学校教育を対象に進めていくことで取り組みを開始した。手探りでやってきた中で、学校には学校特有の事情があり、先生方は日々の業務に多忙で、行事等に参加いただくことも簡単ではないことがわかってきた。実現が可能で意味のあるプランを作成する必要性を痛感し、11年目からはそういった取組みを具体的に進めていきたいと考えている。自然に触れるのは良いことだが、子どもたちの安全配慮等、現場で課題となる細かい点に気づかないこともあった。今回は先生方にご参加いただき、そのあたりをしっかりと踏まえていきたい。忌憚のない意見をお聞かせ願いたい。また、今回は学校の休暇中に開催することで比較的先生方に参加いただけるのではと考えたが、そのあたりのご意見もいただきたい。当面5年程度の予定を考えているが、3年程度で一度中間評価したいと考えており、その範囲での活動計画を考えていきたい。ただいまの事務局からの

資料説明について質問やご意見等があればお願いしたい。

柴田委員 現在は小学校の教員が中心とのことだが、構成員の教員枠については、メンバーを固定せずに行っていただきたい。今後、自身も参加が難しい時もあるであろう。中学校や高校の教員も出入りしやすい環境であれば、多様な視点から検討が出来るのではないかと考えている。

高橋座長 中学校の教員を入れてはという意見も内部では出ており、もう少し多様な教員層の参加もあればと思うが、事務局はどのように考えているか。

事務局 現段階で、事務局から高校教員に積極的に参画依頼をかけることは考えていないが、興味を持っていただける先生がいれば参加いただき、ご意見をいただく場にできればと考えている。

高橋座長 小学校、中学校、高校と、先生方により立場の違いがあり、中学校、高校には話をもっていきにくい雰囲気があった。小学校の教員では、湿原の事を総合的な学習の時間や各教科の中で扱っていただく可能性が少し大きいように感じてきたが、意見をいただきたい。

境委員 今回、小学校の先生が集まったのは、総合的な学習の時間や生活科での活用を念頭においたものと捉えている。今後の議論の中で、小中連携や中高連携等の方向性になってくれば、中学校、高校の先生に参加いただく可能性も十分に考えられる。

高橋座長 今後の状況による部分が大きいですが、努めていきたい。

武市委員 小学校や中学校では理科部会があり、学校支援WGで検討、議論している内容を共有していければ、活性化していくと思う。理科部会には湿原に関心のある先生もいらっしゃるし、個人的に研究されている先生もいる。そうした先生方にも参加いただけると良い。

深瀬委員 やっとここまで来たという感がある。本日参加されている先生は顔見知りの方が多いが、もっと拡がると良い。境先生の授業は中学校でも大変参考になり、関心があるのではと感じている。理科部会に限らず関心ある先生はたくさんいると思うが、こうした場にはなかなか出にくいかもしれない。それぞれ学校事情もあり、個人の都合もあり、大きな行事などが控えていれば参加も難しくなる。先生方だけで集まってこうした意見交換ができる場があれば、より多くの教員が参加できる可能性がある。

高橋座長 閉ざされたWGではなく、様々な学校に積極的に情報提供していくことを考えたい。議論はつきないが、時間の関係もあり、次の議事に進めさせていただく。後ほどでも、議事2について意見があれば、いただきたい。

### 議事3 湿原を題材とした学習素材の収集、活用促進について

事務局 環境教育WGでとりまとめた湿原を題材とした学習の実践事例、教科学習に活用できる画像教材・素材等のWEBサイトへの掲載状況をスクリーンに映写しながら説明を行った。これらを使っただけのような支援の仕組みをこの学校支援WGで考えていきたい。理科だけではなく社会科での活用を念頭に、湿原と関わりの深い農業や塘路湖の漁業等、産業との関わりを学べる学習素材も掲載している。

高橋座長 多くの情報がWEBサイトに収蔵されている。これをどのように活用していけるか考えていきたい。学校教育は普遍的な価値や知識を伝えることが重要だが、同時に地域性を無視はできないのではないかと考えている。例えば、川について学ぶとき、釧路の子どもたちに荒川や隅田川を見せてもびんと来ないだろう。それよりも、釧路川を見せた方が身近で感性に訴える力が強いのではないかと思われ、これは、全てに当てはまることであろう。境先生が教材開発の中で地域の教材をどのようにして学習指導要領につなげるか、授業の中で

活かしていくかについて、ご苦労されているので、意見を伺いたい。

境委員 学校の先生にとって教科書が全てであり、そこに湿原が載っていなければ一般的には湿原は使えない。まずは、湿原のものに置き換えていくことを大地のつくりと変化の単元で行った。教科書に地元の素材が多く載っていると良い。教育出版に関わっているので、地元の素材を掲載してほしいと働きかけも行っている。今回、長野県の信濃教育会の取組を紹介したい。

大熊委員 長野県では、信濃教育会という先生方の集まりが昔からあり、現役の先生が委員となり理科と生活科の教科書を作っている。本部委員の先生は、週2回程度集まり、地域に根ざした教科書をつくっている。地方委員が実践を行い、本部の先生が見に来て教科書に活かしていく。理科については、教科書に加え学習帳も現場の先生が作っている。

境委員 信濃教育会は教科書を作り検定も通しており、長野県では、理科と生活科については、長野県の先生方が作った教科書をほぼ採用している。教科書には自分達の子どもたちが掲載されており、素材もほとんどが長野県のものを使っている。それが釧路でもできれば良いがとても難しい。現在、教科書の電子化もどんどん進んでいるので、例えば、教科書を電子黒板に写した時にクリック一つで素材が湿原に変わるシステムが出来ればおもしろい。教科書会社にも提案しているが、使用画像も検定の対象であるため、難しいだろうと言われている。それであれば、現在、地域創生と言われており、環境省や釧路市等の行政が連携して文部科学省に教育特区を提案し、実現できるとよい。教科書の内容を変えるのは本当に難しいが、画像等を地域素材に変えることが可能な教育特区の指定を受けられれば可能性は考えられる。かなり困難な事ではあるが、将来的な夢として考えていきたい。

高橋座長 信濃教育会では検定はスムーズに通ったのか。

大熊委員 自身が子どもの頃から地元の素材を使った教科書だったため、当時の経緯は把握していない。

境委員 長野県は県全体で声を上げて頑張った経緯がある。

高橋座長 長野県の話題は先進事例かもしれない。現実的には、釧路や北海道ですぐに出来ることではなく、工夫の仕方を考えていかななくてはならない。これまでは補助教材や地域教材として、教科書の補助的に使ってきているが、釧路湿原や自然再生が入るということも可能か。

境委員 副教材は使う先生と使わない先生がいる。あくまでも教科書が主役。

深瀬委員 以前は湿原の副教材があったが、学校の方針として必ず使うというものではない。手っ取り早いのは授業の中で、関連する教科の中で取り扱うことになる。

高橋座長 環境教育WGでは、例えば、食物連鎖の絵を釧路湿原の生態系をもとに作った。全国版の教科書に掲載されている生物が、見たことも触れたこともないものであれば、なかなか学習効果が上がらないかもしれない。本来、補助的にでも地域に根ざした食物連鎖の紹介がされるのが望ましいと考えるが、意見をいただきたい。

柴田委員 地域素材を扱ったときに一番困るのは生徒の成績評価である。教員の立場からは、地域の素材を使いたいという思いはあるが、テストは教科書に合わせて作られているので、地域版だけではなく全国版も教えなければならない。つまり、二重の過程を踏むことになる。下幌呂小学校も湿原には近いが、学習素材の食物連鎖のイラストの中で、実際に子どもたちが見たことがあるのは、ツルやキツネ、シカ等で、こうした動物に実際に触れていない子もいる。こうした子にとっては、教科書に掲載されている身近でない生き物も、地域に生息する生き物も、同じレベルなのではないかと感じている。テレビで良く紹介される生き物の方が身近な場合もあるのではないかと思う。このように、実際の子どもたちの様子と、評価の

問題と、教員が行う部分とを合わせて考え、改善していかなければいけない。指導者側がこの学習素材だけ出しても評価がついてこなかったり、子どもたちの実態がついてこなければ、学習素材としては浮いてしまう。

大熊委員 長野では日常的な自然との関わりを大切にし、自分達の目の前で起こっていることを題材として扱うようにしている。必ずしも自然が豊かな学校ばかりではないが、自然は小さいながらも存在し、そうしたものの関わりを大事にしながら教科学習とつなげていくことを大切にしていきたいと考えている。

高橋座長 以前は、学校林やビオトープを作ろうといった学校もあったと思うが、そういった工夫によりできるのだろうか。

大熊委員 関わりがなければ、自分のものにはならず、知識だけになってしまう。どうつないであげるのかを教員がしっかり考えていければと思う。

高橋座長 食物連鎖のイラストでは、釧路湿原に生息する生き物の食物連鎖を描いてみたが、肝心の釧路の子どもたちがあまり触れたことがない生き物であったりするかもしれない。地方に住んでいる子どもたちも、テレビや様々なメディアの中で都会化されており、油断がならないと社会学者に言われる。つまり、「触れる」ことを積極的に考えなければならないが、交通費等の様々な問題が出てくる。だからといって、最初からあきらめるのではなく、どのように学校支援WGが支援していけるのかを、これから考えていきたい。

富田委員 湿原を必ず学習の内容として扱わなければならないわけではない。昨年度までに作成した素晴らしい学習素材をどう先生に使ってもらえるか、気がついてもらえるかを考えてはどうか。釧路市教育委員会でも、WEBサイトのチラシなどを配布させてもらっているが、学習素材の存在を知った先生に興味をもってもらうことからだろう。それ以上の事をやってみようとする、我々にも、学校にも無理が生じてくる。先生方が学習素材の存在を知っていれば、教科書の中で湿原の食物連鎖のイラストに置き換えて活用していく、紹介していくといった事は、十分にできる。そうしたPRをしていくことが、まずは大切であろう。

塩谷委員 先生方と話をすると環境教育に取り組まれている学校は多く、また、管内は自然が豊かなので、釧路川だけでなく自然を題材とした学習に取り組まれている学校もたくさんある。その中で先生方とお話させていただく時に感じることは、授業改善に悩んでいる先生方も沢山いらっしゃる、実際に自然と親しませようと子どもたちを連れて行くのだけれど、自然の素材の中で、具体的に何を学ばせて、何を感じさせて、何に気づかせたらいいか悩んでいる先生方もたくさんいる。釧路川にこのような動物がいる、ということを知るだけでも、先生方にとって、子どもたちに働きかける中で貴重な資料となる。富田委員がおっしゃっていたように、出来るだけ多くの学校に知っていただき、授業づくりの一つの要素として、また子どもたちに提供する情報の一つとして、全てを使うのではなく、要素を取り入れていくということ働きかけていけば、先生方にとっても使いやすいものになっていくのではないかと。

高橋座長 先生との接点、通路を考えていかなければならない。

塩谷委員 素晴らしい素材であり、見たら使いたい先生はいると思う。

松本委員 何年か前に自分の授業で釧路川の素材を使わしていただいた。理科の授業を進める際、最後に実感を伴った学習が求められるが、身近な川を子どもたちに見せたいという思いがあった。それまではこの学習素材のことを知らなかったが、一緒に授業づくりをして下さったメンバーが色々と調べてくれて紹介いただき、この教材を知った。それほど長くもなく、短い動画もあったので、授業の中で活用することができた。同じ意見になるが、まずは先生方に知っていただき、PRしていくことが有効であろう。また、この学習素材が学習の入り

口ではなく、出口で使うということも考えられる。教科書で学んだことが、身近ではどうなっているのだろうかという働きかけをした時に、身近な釧路湿原、釧路川でも同じことがあるということ子どもたちが理解し、すんと落ちるといった流れで活用するという方法もある。

高橋座長 情報発信はインターネットに載せることで終わっている場合も多い。具体的に情報が相手に届くために工夫する必要があるかもしれない。

水上委員 先ほどの意見にもあったが、「しなければならぬ」という落とし方でいくと学校はつらい。「これいいぞ」ねらいを持った学習を進める場合に「これは使えるぞ」という紹介の仕方が一番重要だと考える。大きな枠の中で、釧路湿原が差し迫って抱える問題や自然再生をしなければならぬ必要感といった、大きなねらいの部分が正直よくわからない。ただ単に自然に親しもう、環境を守ろうということであれば、釧路湿原である理由はない。その大きなねらいを明確にした後に、今すぐとはいかないが、将来的に、小学校、中学校で段階的に学習をし、道東に住む人間が、自然は大切だと感じ、生き方に関わる部分でも見過ごすことはできないといった心情、態度を育てられれば非常に良いと思う。根っこの部分で、このままでいくと生態系が崩れ大変なことになる、自然を守らなければ自分達に返ってくるといった、釧路湿原を題材として進める大枠の目的を教えていただけたらと思う。

西山委員 釧路湿原は徐々に環境が変わってきている。釧路湿原の自然再生事業の中でシンボリックに言われているのは、直線化した河川を再蛇行させるといったものがあり、これは全国の自然再生事業の中でもシンボリックのように言われている。釧路湿原は、ラムサール条約の最初の国内登録湿地で、日本最大の湿原でもある。このように特別で素晴らしい場所であるが、地元の方々の注目度はむしろ少ない。そういった部分で、この学校支援WGや再生普及小委員会等で何とかしていけたらと考えている。

佐々木委員 地域の素材の画像等は、そういうものがあれば先生方は活用したいと思う。自身の立場の中で宣伝していかなければと思うが、身近な素材は繰り返し関わることが前提であろう。画像を見て子どもたちが行ってみたいと思った時に、実際に行ってみることに、採集したり、関わってみたりといったことが難しいのであれば、テレビで見たものとそれほど変わらないのではと思う。それでも釧路湿原にこだわるにはなぜかと考えた時に、先ほど説明があったように、価値がある場所という理解をしなければならなくなると、「釧路湿原科」といった新たな学習プログラムを作って、釧路の子どもたちは小さい頃から湿原の大切さを学び、後世に伝えていこうといった発想が必要になってくる。環境教育の中で素材として使うレベルでは、釧路湿原の価値を感じている学校もあれば、使いづらいと感じている学校もあり、幅があろう。境委員からの意見にあったように、釧路湿原を題材として進めるといった覚悟を持って、外に働きかけ、形をつくっていかざるをえない。いずれにせよ、なぜ学校で湿原を取り上げなければならないのかをもっと明確にし、子どもたちに何を学ばせたいのか絞り込んでいかなければ、この学校支援WGでの話し合いにもまとまりが出ないのではないかと感じる。

田中委員 資料 2-1 の設置目的の中で、「湿原の活用」とはどんなイメージを指すのかと考えていたが、行動計画の冊子 6 ページに記載されている内容が、活用に向けたイメージであると自身では理解した。触れる、楽しむ、つなぐ、学ぶ、といった湿原の活用を目指しているのだろうと考えていた。今はインターネットを見れば表面の事だけは様々な事を学べるが、自然は 1 回、2 回行っただけでは実感を伴った体験を得ることは難しい。そのためには、四季を通して通えるとよいが、湿原に近い下幌呂小学校であっても 2 回程度しか通えないだろう。また、バスが頻繁に出ているわけでもない。湿原カーがいつも走っていたり、バスが年

間通して走っていたりしないと繰り返す行くことができない。それができないのであれば、様々な教科の中で、湿原の良さ、釧路の良さを取り上げられるよう、先生方の引き出しを広げていけると良い。そうすれば、授業の中で先生方が問いかけていくことができる。そこで深く取り上げられなくても、子どもたちが休日に湿原に行ってみたいと思う感覚を生み出すことが出来れば、それだけでも非常に大きいと思う。自身も学習資料の内容を詳細には理解していなかったが、内容は非常に効果的であろうと感じ、先生方にも広めていけたらと考えている。「湿原」をテーマとしてしまうと非常に壮大であり、総合的な学習の時間でなければ扱えないと考える学校もあろう。総合的な学習の時間に他のテーマを選択している学校が湿原に全く触れることができないというのは非常にもったいない。様々な教科で少しずつでも良いので、取り上げていき、先生方の引き出しを増やし、PR もしながら子どもの興味関心を育ていけると良い。大人であっても、湿原を通過はするが立ち止まって見ることは少なく、湿原展望台やホテル観察などに頻繁には行かない。そういった感覚が大人にも子どもにもある。授業の中で、子どもたちに興味関心を持ってもらえるような問いかけを行っていくことができれば違うと思う。そこで、3分とか5分程度の短い動画があると学校でも使いやすいであろう。完結していなくとも、投げかける形でも、児童の関心を引き出す形で使っていければよい。このように、活用の幅を広げていくことも考えられる。

西山委員 羅臼町等いくつかの町村では「知床学」を学校でやっている。釧路湿原に適したやり方はわからないが、それと同じことが出来るかもしれない。

#### 議事4 自然再生の学校教育への活用促進について

事務局 **資料4**及び再生普及行動計画オフィスのWEBサイトにより、各サイトの事業趣旨や実施状況等を説明。

高橋座長 各小委員会による見学会を実施してきているが、教員研修として学校の先生方にも見ていただくようにしている。できれば子どもたちも一緒に見学してもらえよう、積極的に考えていきたい。先ほど委員から意見をいただいたように、「ここは楽しい」、「ここは使える」、「問題がある」という要素があるフィールドを選んで、見学会や研修を実施していきたいと考えているが、いかがか。

西山委員 学校支援WGの話し合いを進める上で、ここに行ければというご意見があれば、後ほどでも結構なのでご意見をいただけたらと思う。

佐々木委員 釧路湿原の自然再生の取組みと、これまでの話にあった学校における湿原教育というものは、どのようにつながるのか。自然に手をかけて再生していくことに意味があるということを含めて湿原学習をイメージしているのか、身近な素材に触れるという湿原学習をイメージしているのか、この学校支援WGが再生事業に関わっていくという部分でイメージがはっきりしない。

高橋座長 いくつかの段階があると思うが、事務局はどのように考えているか。

事務局 子どもたちには難しすぎるという意見もいただき、8年間行ってきた環境教育WGでは自然再生には踏み込まなかった。逆に先生方からは、守るという部分で再生事業の取組みをもう少し出していても良いのではないかというご意見もいただいていた。この学校支援WGでは、これまでの意見にあったように、湿原に触れる、身近に感じてもらうという部分が主ではあるが、釧路湿原に問題があり、地域をあげて守っていく取組みが進められているということ、地元のこととして子どもたちに知ってもらうことができないか検討していければと考えており、もう一段階ステップアップした位置づけである。



佐々木委員 自然再生の切り口からは、例えば道德の素材等にもなると考えていた。理科、社会科だけでなく、そういうことも含めた素材づくりになるということは理解できた。

高橋座長 少しずつステップを上げられるように努力していく必要がある。以前に、土砂崩れの跡地を見て、言葉が出ないくらいの印象を受けていた子どもたちがいたが、そうした切り口からでも、問題点を意識する教材になってもらえるかと思う。

境委員 参考資料の中で、自由研究発表を活性化させる、という話がある。出口として湿原の活用が考えられるのではないかと委員から意見があったが、自身もそのように考えている。子どもたちが様々なものに触れ合う中で、自分達でこのようにしなくてはならない、このように考えると、子どもたちが主体的に考えていく上で、自由研究は非常に意味があるものと考えている。現在は、学校あるいは市町村独自で行われているかと思うが、釧路管内で、湿原に関わる自由研究発表会をやろうと働きかければ、少し出てくるのではないかと、そういった部分から活性化が図れば良いのではないかと思う。子どもたちが独自に研究する場面上手く支援が出来ればと考えている。

高橋座長 課題も多いかと思うが、そうしたことも目指していきたい。第1回目の学校支援WGということもあり、皆さんより意見をいただき、方向性を確認してきた。本日いただいた課題点を整理し、第2回学校支援WGで考えていきたい。

## その他

事務局 次回の開催は冬休み期間を予定しているが、その前に、教員研修や自然再生地をめぐる見学ツアー等の実施を検討しご連絡させていただく。これらの日程調整は改めてさせていただきたい。なお、自然再生地の見学会、モニタリング等は公開行事として参加機会もあり添付のチラシを参照願いたい。また、第2回学校支援WGの開催までに、本日いただいた意見を踏まえて委員の皆様にご意見を聞きに伺いたいと考えており、ご対応の程、よろしく願いたい。

これで第1回湿原学習のための学校支援WGを終了する。

## 開会